◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館　読書会協力図書
新規受入セットのご紹介（一般向け）　令和3年版

4　自然を見つめる

487　エンド・オブ・ライフ

佐々　涼子/著　集英社インターナショナル 2020 年 315p

2013 年、在宅医療の取材で訪れていた京都の診療所。2018 年、そこで出会った訪問看護師の森山が、末期がんの宣告を受けたとの知らせが届く。彼との対話を軸に、過去に出会った患者やその家族の終末期の迎え方、在宅医療を支える医師や看護師、そして筆者の母の在宅療養を献身的に行う父の姿を見つめた、「命の閉じ方」を問うノンフィクション。2020 年本屋大賞ノンフィクション本大賞を受賞。

F　小説

F586　ライオンのおやつ

小川　糸/著　ポプラ社　2019 年　255p

余命を告げられた雫は、瀬戸内の島にあるホスピス「ライオンの家」で最後の時間を過ごすことを決める。ここでは毎週日曜日、「もう一度食べたい思い出のおやつ」を叶えるお茶会が開かれていた。優しいときの流れに、雫はこれまでの、そして、これからの全てを受け止めていく。生きること死ぬことを抱きしめるような、ぬくもりに包まれた物語。

9　詩歌・随筆・記録・外国文学

9402　アーモンド

ソン　ウォンピョン/著　矢島　暁子/訳

祥伝社　2019 年　267p

頭の中の「アーモンド」（扁桃体）が周りの人と少し違っていたために、少年は感情というものを持たなかった。祖母から「かわいい怪物」と呼ばれる彼がもう一人の「怪物」と出会ったとき、物語が動き始める。愛とは、共感とはどんなものかを改めて考えたくなる、2020 年本屋大賞翻訳小説部門第1位の作品。

F587　熱源

川越　宗一/著　文藝春秋　2019 年　426p

明治初期から第二次大戦後という激動の時代に、樺太（サハリン）・日本・ロシア・欧州を舞台に繰り広げられる史実をもとにした壮大な物語。樺太アイヌのヤヨマネクフとポーランド人のブロニスワフ・ピウスツキ。降りかかる理不尽によって、アイデンティティを揺るがされながら生きる二人の人生が樺太で交錯する。著者は2作目である本書で第162 回直木賞を受賞。

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館 読書会協力図書
新規受入セットのご紹介（一般向け） 令和3年版

F 小説

F588 ザ・ロイヤルファミリー

早見 和真/著 新潮社 2019 年 504p

本作のテーマは「継承」。クリスこと栗須栄治は、ワンマンな社長、山王耕造の秘書として働くことになり、馬主としての仕事にも関わっていく。クリスの目を通して、社長の悲願、競馬界の人々の夢、競走馬の血を伝え繋げていくことが語られる。躍動感溢れる競馬のシーンは、圧巻。競馬ファンでなくても楽しめる、第 33 回山本周五郎賞受賞作。

F589 迷子のままで

天童 荒太/著 新潮社 2020 年 155p

社会問題の深部に切り込む短編二編を収録。第一編では、虐待の連鎖を描く。勇輔は、同棲中の恋人の子供との折り合いが悪い。そんな勇輔に実の子が虐待で死んだと連絡が入り、不穏な物語が動き出す。第二編は、震災後の福島で生きる人々を描いた作品。遥也は、除染作業のアルバイトをしている青年。彼とともに働く仲間たちには、それぞれ事情があって……。遥也は、津波の後に拾った女子高生の生徒手帳を返すことができるのか。

F590 少年と犬

馳 星周/著 文藝春秋 2020 年 308p

東日本大震災の爪痕がまだ残る仙台に、どこからともなく一匹の犬が姿を現した。汚れてはいるものの、賢そうな顔に漆黒の透き通る瞳。その視線はいつも南の方角に向けられていた。東北をあとにして、山を越え、街を抜け、どこか孤独の匂いのする人たちとの出会いを経て、放浪の犬がたどり着く先は……。第 163 回直木賞受賞作。